

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	兵庫県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	芦屋市立岩園小学校								
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	障害児学級	計	教員数
学級数	3	3	3	2	3	3	3	20	26
児童数	107	86	86	63	83	96	6	527	

研究の概要

1. 研究主題

一人ひとりが喜びを感じる学びの創造
 確かな学力の向上をめざした、きめ細かな指導方法の工夫と指導体制の改善

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

全学年 算数(子どもの理解度に差が出やすい教科であるため)
 4年 社会・体育の交換授業(教師の専門性を生かすと共に、学年全体で子どもを見ていくため)
 5・6年 理科(担当教師の専門性を生かし、学ぶことの楽しさを味わわせるため)
 体育(安全に対する配慮のため、複数指導をする)

(2) 年次ごとの計画

平成14年度
 テーマ
 きめ細かな指導のための指導体制の確立
 研究の見通し(仮説)
 指導体制の工夫改善を行うと共に、子ども・保護者・教員の共通理解・意識改革を図ることにより、確かな学力を育てることができるであろう。
 研究の内容・方法
 研究組織の確立 教員の共通理解 児童の実態把握 交換授業の体制確立
 保護者・児童のアンケート 実践校との交流

平成15年度
 テーマ
 学ぶ喜びを感じられる指導方法の開発
 研究の見通し
 子どもが興味・関心を持つような教材・教具や指導方法の開発をしたり、共に学び高めあえる学習形態の工夫をしたりすれば、学ぶ喜びが感じられ、確かな学力を育てることができるであろう。
 研究の内容・方法
 教材・教具の開発 指導方法の工夫 学習形態の工夫
 効果的なノート指導の研究 授業実践 校内研究の充実
 講師の指導助言
 実践校の研究会への参加 保護者・児童のアンケート

平成 16 年度	<p>テーマ 評価を生かした指導のあり方 研究の見通し（仮説） 評価を生かした指導をすれば、子どもの学ぶ意欲が高まり、確かな学力を育てることができるであろう。</p> <p>研究内容・方法 評価規準の見直し 評価基準の研究 評価方法の工夫 自己評価・他者評価の方法の研究 評価を生かした指導方法の研究 校内研究の充実 講師の指導助言 実践校の研究会への参加 保護者・児童のアンケート</p>
----------------	---

* 平成15年度からの新規校については、平成15、16年度の計画について記入すること。

(3) 研究推進体制

<p>授業研究推進部会 校長・教頭・フロンティア加配教員・学年1名以上・専科</p> <p>平成14年度は授業研究推進部会が「総合学習」の研究を進め、フロンティア推進部会がフロンティアに関する研究を進めたが、今年度からこれを1本化して授業研究推進部会として取り組んだ。</p>
--

平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

<p>子どものアンケートから 少人数指導について「よい」「まあまあよい」で 3年生93% 4年生65% 5年生78% 6年生92% 教科担任制について「よい」「まあまあよい」で 3年生85% 4年生76% 5年生78% 6年生75% 交換授業について「よい」「まあまあよい」で 4年生72%</p> <p>保護者のアンケートから 少人数指導について「よい」「まあまあよい」で 3年生97% 4年生100% 5年生90% 6年生85% 教科担任制について「よい」「まあまあよい」で 3年生94% 4年生100% 5年生85% 6年生97% 交換授業について「よい」「まあまあよい」で 4年生94%</p> <p>以上のようにどの項目も概ねよい評価を得ている。特にこのシステムについては多くの保護者の賛同を得ているのでそれだけこのシステムに対する期待がうかがえる。</p> <p><昨年度のデータ> 子どものアンケートから 算数の授業が楽しい3年生60% 4年生61% 算数の授業がわかりやすい3年生59% 4年生77% 理科の授業が楽しい5年生82% 5年生86% 理科の授業がわかりやすい5年生61% 6年生65% 保護者のアンケートから 教科担任制を必要と感じる99% 少人数指導を必要と感じる97%</p> <p>少人数指導の成果 ・机間巡視等による個別指導の時間が多く取れ、児童は間違いをその時間内に直すことができた。</p>
--

- ・自分の考えを発表する機会が多くなり、そのことが意欲や自信につながった。
- ・少人数なので指導者と子ども、子どもと子どもの距離が近くなり、親近感が深まり意見交流・質問等が緊張しないでできるようになった。
- ・教室や指導者が変わることで、気持ちの切り替えができ、意欲的に取り組めるようになった。
- ・5・6年生も教科担任制の導入及び時間割の工夫によって少人数指導ができた。

教科担任制の成果

- ・教材研究に時間をかけることができ、より詳しく丁寧に指導することができた。
- ・教科担任制によって担任が空いた時間を少人数指導に当てることができた。

交換授業の成果

- ・得意分野を生かし、丁寧な教材研究、授業の工夫ができた。
- ・子どもたちは、気持ちの切り替えができやすかった。
- ・学年で統一した指導ができた。
- ・子どもたちを客観的に見ることができた。

授業形態の工夫

- ・学習の始めに各自がめあてを持つことにより、子どもたちがめあてを意識して意欲的に取り組めるようになった。
- ・学習の最後にめあてを意識した振り返りをして次の学習に向かう意欲を高めることができた。
- ・自分の力で課題解決をして発表し、それに対して質問や付けたしなどの交流することによって考えを深めることができた。このことが友だちの考えの良さを認め、共に学ぼうとする意欲につながった。
- ・自分にあった課題を自分で選ぶという学習活動が子どもの意欲を高めることにつながるということがわかった。

基本的な学習態度の育成

- ・全教員が意識して取り組み始めた

スキルタイムの設定

- ・全校で朝の時間を利用して計算や漢字などのスキルタイムを実施した。

2. 今後の課題

少人数指導（算数）について

- ・補充教材・発展的な教材などの研究をして個に応じた確かな学力の向上をめざす。独自学習しかたや本時の学習内容につながる「学習のめあて」の持たせ方など、子どもの意欲を高める工夫をする。
- ・客観的な評価の方法について研究する。
- ・評価を生かした指導のあり方について研究する。
- ・指導者間で指導計画について綿密に打ち合わせをし進度や宿題などに差が出ないようにする。
- ・教科担任制（専科授業）の空いた時間を利用しての少人数指導は担任の負担がかなり大きい。また、行事の前の特別時間割の間は担任も音楽や図工に関わるが多くなり少人数授業ができにくい。

教科担任制の課題

- ・子どもの様子について、授業のことだけでなく、生活面についても学級担任と教科担任が、より丁寧に見ていく。
- ・担任と連携をとって子どもたちに負担のかからない課題（家庭学習など）の出し方を考えたい。
- ・教師の専門性を生かすということでは毎年度専門性の高い教員を配置できるかという課題が残る。

交換授業の課題

- ・時間割の変更などで子どもたちに混乱が起きないように細かく打ち合わせをする。
- ・専門性を生かすという意味からは毎年度交換授業ができるとは限らない。

その他の課題

- ・基本的な学習態度の育成（継続研究）

・スキルタイムの充実

学力等把握のための学校としての取組

評価基準の作成 指導者同士の情報交換 思考の傾向・理解度を把握するためのノ
ート点検 自己評価の実施 小テスト及び単元別テストの実施

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- ・市内・県内の研修会での報告（16年度 2学期）
- ・研究冊子の作成配布（16年度 3学期）
- ・HP作成（16年度 3学期）

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上
- 【指導体制】 少人数指導
教科担任制 T・Tによる指導
 その他
- 【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無